

USストラテジック・インカム・ファンド（年1回決算型）為替ヘッジなし <愛称：債券王>

追加型投信／内外／債券

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、円建て外国投資信託への投資を通じて、実質的に米ドル建て米国債券に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2019年2月26日～2020年2月25日

| | | |
|----------------------|----------------|----------|
| 第7期 | 決算日：2020年2月25日 | |
| 第7期末 (2020年2月25日) | 基準価額 | 12,597円 |
| | 純資産総額 | 1,465百万円 |
| 第7期 | 騰落率 | 11.0% |
| | 分配金合計 | 0円 |

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。
(注2) △（白三角）はマイナスを意味しています（以下同じ）。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

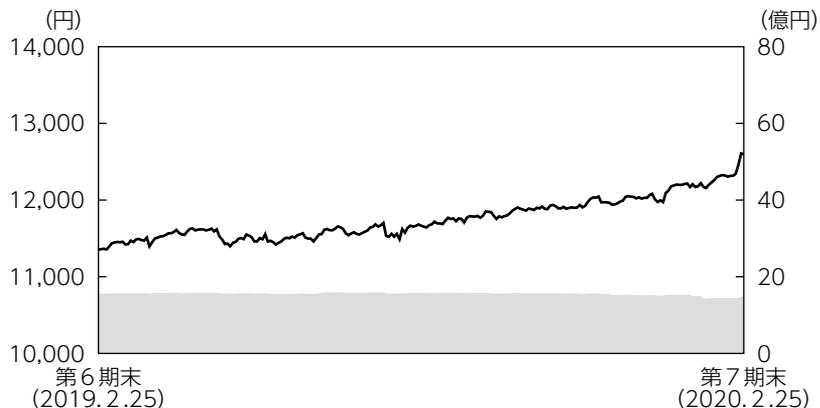
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第7期首：11,352円
 第7期末：12,597円
 (既払分配金0円)
 騰落率：11.0%
 (分配金再投資ベース)

■ 純資産総額 (右軸) — 基準価額 (左軸) - - 分配金再投資基準価額 (左軸)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

基準価額は上昇しました。国債を中心に利回りが低下（価格は上昇）した環境下、堅調に推移した国債と投資適格社債を高位に組入れたことや、為替市場において米ドルが対円で上昇したことなどがプラス要因となりました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

| 組入ファンド | 騰落率 |
|---|-------|
| D I A Mケイマン・ファンドーJanus USコアプラス・ ボンド・ファンド 円建て毎年分配為替ヘッジなしクラス | 12.1% |
| D I A Mマネーマザーファンド | △0.0% |

- (注) D I A Mケイマン・ファンドーJanus USコアプラス・ボンド・ファンド 円建て毎年分配為替ヘッジなしクラスの騰落率は、分配金を再投資したものとみなして計算したものです。

1 万口当たりの費用明細

| 項目 | 第7期 | | 項目の概要 |
|---------------------|-----------------------------|------------------|--|
| | (2019年2月26日 ～2020年2月25日) | | |
| | 金額 | 比率 | |
| (a) 信託報酬 | 95円 | 0.805% | (a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は11,756円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価 |
| (投信会社) | (32) | (0.272) | |
| (販売会社) | (58) | (0.490) | |
| (受託会社) | (5) | (0.043) | |
| (b) その他費用 (監査費用) | 0 (0) | 0.003 (0.003) | (b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 |
| 合計 | 95 | 0.808 | |

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

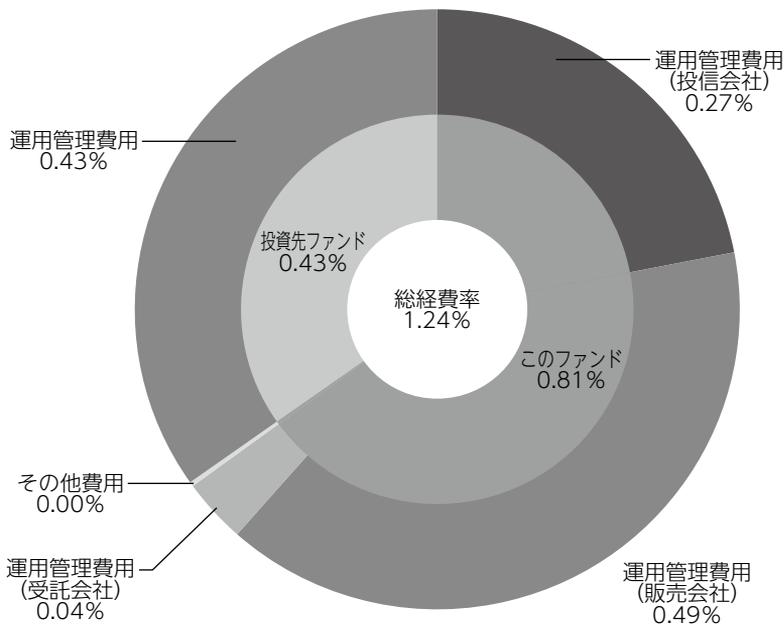
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.24%です。



| | |
|--------------------|-------|
| 総経費率 (①+②) | 1.24% |
| ①このファンドの費用の比率 | 0.81% |
| ②投資先ファンドの運用管理費用の比率 | 0.43% |

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

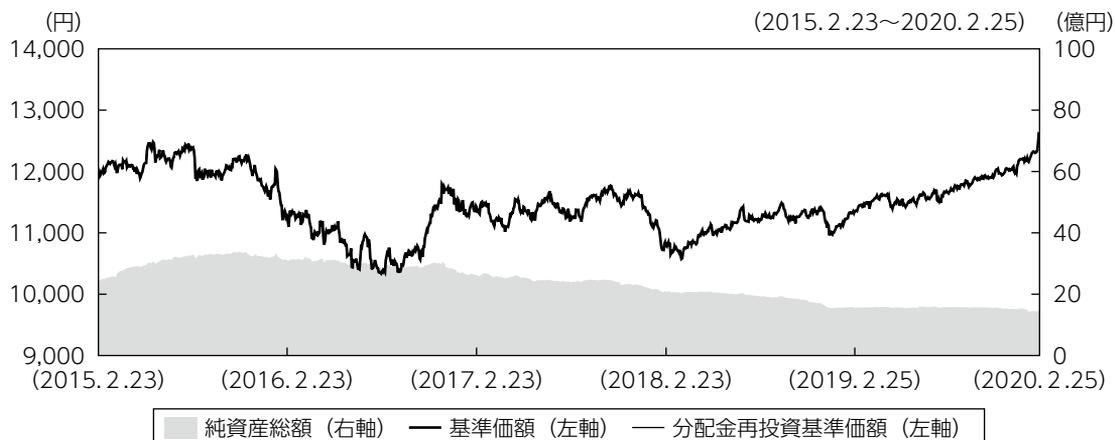
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2015年2月23日の基準価額に合わせて指数化しています。

| | 2015年2月23日 期首 | 2016年2月23日 決算日 | 2017年2月23日 決算日 | 2018年2月23日 決算日 | 2019年2月25日 決算日 | 2020年2月25日 決算日 |
|--------------------|------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 (分配落) (円) | 11,875 | 11,264 | 11,415 | 10,788 | 11,352 | 12,597 |
| 期間分配金合計 (税引前) (円) | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分配金再投資基準価額の騰落率 (%) | — | △5.1 | 1.3 | △5.5 | 5.2 | 11.0 |
| 純資産総額 (百万円) | 2,424 | 3,114 | 2,622 | 2,083 | 1,560 | 1,465 |

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマーク及び参考指標を定めておりません。

投資環境

米国債券市場は10年国債利回りが前期末比で低下しました。期前半は、世界的な景況感の悪化懸念が継続し、FRB（米連邦準備理事会）が金融政策に関してハト派的な姿勢を維持したことや、米中の貿易摩擦の再燃を受けて低下しました。その後、FRBが実施した3度の利下げによる景気下支え期待と米中貿易協議の進展が金利低下を抑え、2019年9～12月は上昇しました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大による世界経済への影響が懸念され、2020年2月以降、大きく低下しました。

為替市場では、米中貿易交渉進展への不透明感やFRBの3回の利下げにより大きく円高に振れる局面がありましたが、米中貿易交渉の進展や先進国内では相対的に高い米国の金利水準への米ドル需要もあり、米ドルは対円で上昇しました。

国内短期金融市場では、3ヵ月物国庫短期証券利回りは△0.3%台から△0.0%台のレンジで推移しました。米中貿易問題の影響を受けて市場は変動しましたが、2020年1月に米中間で、第一段階の合意が行われたことを受けて、市場は落ち着きを取り戻しました。そうした中、日銀は緩和的な金融政策を維持しました。そのため、3ヵ月物国庫短期証券利回りは小幅な動きとなりました。

ポートフォリオについて

●当ファンド

DIAMケイマン・ファンドーJanus USコアプラス・ボンド・ファンド 円建て毎年分配為替ヘッジなしクラスの組入比率は原則として高位を維持し、DIAMマネーマザーファンドへの投資も行いました。

●DIAMケイマン・ファンドーJanus USコアプラス・ボンド・ファンド

円建て毎年分配為替ヘッジなしクラス

世界的な景況感の悪化懸念や米中貿易摩擦の継続を慎重に見て、期初は国債の組入比率を高めとしました。その後、FRBが利下げを実施し、2019年前半に金利が大幅に低下したことから、金利の低下余地が限定的になったと見て、徐々に国債の組入比率を引き下げました。その一方で、利下げにより景気が下支えされると見て、投資適格社債の比率を引き上げました。信用リスクが高い発行体は、低成長と米中貿易摩擦から影響を受けやすいと見て、ハイイールド社債は比率を引き下げました。

●DIAMマネーマザーファンド

残存期間の短い政府保証債を中心とした運用を行いました。

分配金

当期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、無分配とさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

| 項目 | 当期 |
|------------|---------------------------|
| | 2019年2月26日 ～2020年2月25日 |
| 当期分配金（税引前） | －円 |
| 対基準価額比率 | －％ |
| 当期の収益 | －円 |
| 当期の収益以外 | －円 |
| 翌期繰越分配対象額 | 2,596円 |

（注1）「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

（注3）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続き、D I A Mケイマン・ファンドーJanus USコアプラス・ボンド・ファンド 円建て毎年分配為替ヘッジなしクラスを高位に組入れることを基本とした運用を行います。また、D I A Mマネーマザーファンドへの投資も行います。

●D I A Mケイマン・ファンドーJanus USコアプラス・ボンド・ファンド

円建て毎年分配為替ヘッジなしクラス

F R Bの利上げ再開までには時間がかかると予想される中、投資家の利回り追求の動きを背景に社債セクターが穏やかながら上昇していく可能性があります。しかし米国大統領選に向けた政治的な動きへの警戒から社債の業種および銘柄の分散を重視しています。新型コロナウイルス問題や地政学リスクによる悪影響、投資家のセンチメント急変の可能性も注視しています。今後も元本保全を重視したポートフォリオを維持しつつ、リスク調整後リターンを獲得をめざす方針です。

●D I A Mマネーマザーファンド

日銀の物価目標である2%まではまだ距離があるため、当面は金融政策を据え置くと予想されています。今後も政府保証債や地方債などを中心に投資を行い、安定的な運用をめざしていきます。

お知らせ

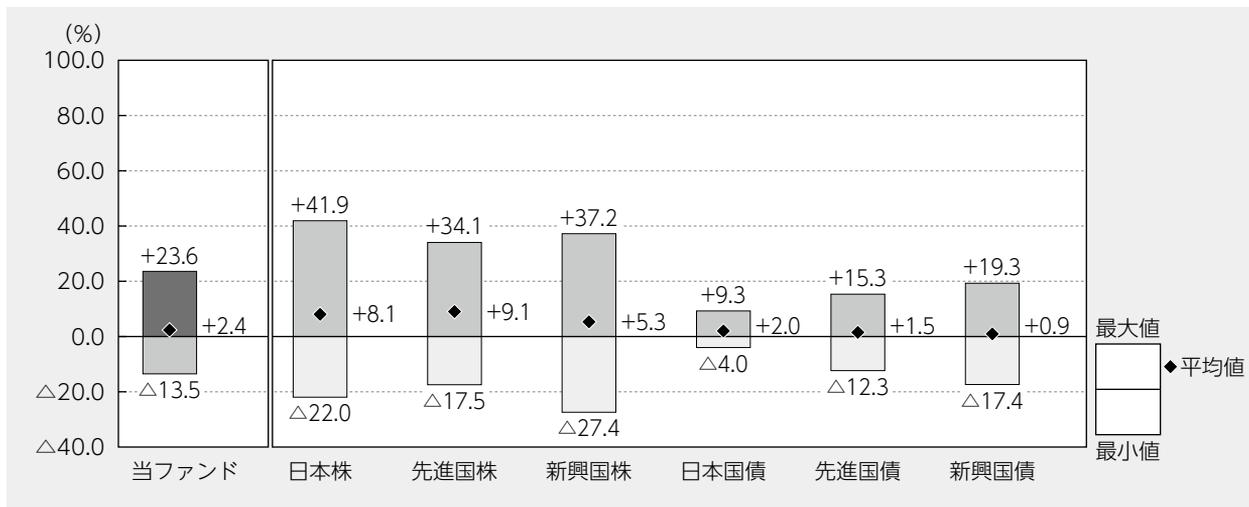
■信用リスクを適正に管理する方法を規定する所要の約款変更を行いました。

(2019年5月25日)

当ファンドの概要

| | |
|--------|--|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／債券 |
| 信託期間 | 2013年12月20日から2023年2月23日までです。 |
| 運用方針 | 信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。 |
| 主要投資対象 | 円建て外国投資信託である「D I AMケイマン・ファンドーJanus USコアプラス・ボンド・ファンド 円建て毎年分配為替ヘッジなしクラス」の投資信託証券を主要投資対象とします。また、証券投資信託であるD I AMマネーマザーファンド受益証券への投資も行います。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。 |
| 運用方法 | 円建て外国投資信託への投資を通じて、実質的に米ドル建て米国債券に投資します。外国投資信託への投資比率は、原則として高位を保ちます。実質組入外貨建資産については、原則として、対円での為替ヘッジを行いません。 |
| 分配方針 | 決算日（原則として毎年2月23日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。 |

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2015年2月～2020年1月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2020年2月25日現在）

◆組入ファンド等

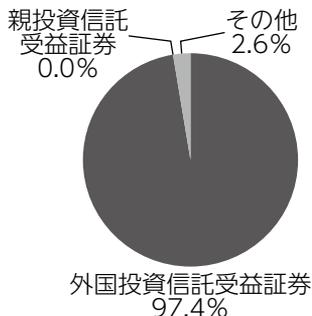
（組入ファンド数：2ファンド）

| | 当期末 |
|--|------------|
| | 2020年2月25日 |
| DIAMケイマン・ファンドーJanus USコアプラス・ ボンド・ファンド 円建て毎年分配為替ヘッジなしクラス | 97.4% |
| DIAMマネーマザーファンド | 0.0 |
| その他 | 2.6 |

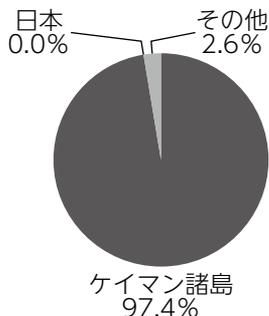
（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

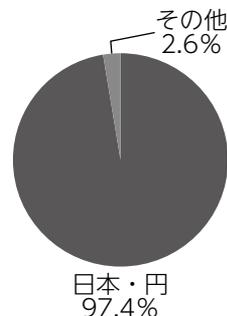
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

純資産等

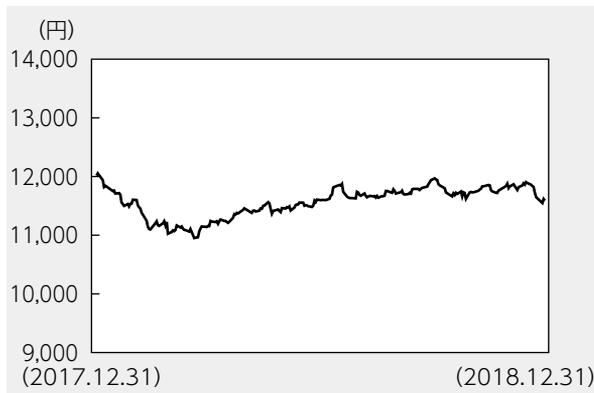
| 項目 | 当期末 |
|------------|----------------|
| | 2020年2月25日 |
| 純資産総額 | 1,465,980,501円 |
| 受益権総口数 | 1,163,785,984口 |
| 1万口当たり基準価額 | 12,597円 |

（注）当期中における追加設定元本額は57,016,906円、同解約元本額は267,595,862円です。

組入ファンドの概要

[DIAMケイマン・ファンド-Janus USコアプラス・ボンド・ファンド 円建て毎年分配為替ヘッジなしクラス] (計算期間 2018年1月1日~2018年12月31日)

◆基準価額の推移



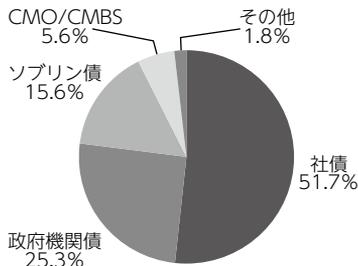
◆組入上位10銘柄

| 銘柄名 | 通貨 | 比率 |
|------------------------------------|---------|------|
| US TREASURY N/B 3.125% 11/15/28 | アメリカ・ドル | 6.5% |
| US TREASURY N/B 2.875% 08/15/28 | アメリカ・ドル | 4.1 |
| US TREASURY N/B 3.000% 08/15/48 | アメリカ・ドル | 3.2 |
| US TREASURY N/B 3.375% 11/15/48 | アメリカ・ドル | 2.6 |
| US TREASURY N/B 2.875% 10/31/23 | アメリカ・ドル | 2.1 |
| US TREASURY N/B 2.875% 11/30/23 | アメリカ・ドル | 1.8 |
| US TREASURY N/B 3.000% 02/15/48 | アメリカ・ドル | 1.4 |
| FGLMC POOL# G67706 3.500% 12/01/47 | アメリカ・ドル | 1.2 |
| FNMA POOL# BJ9181 5.000% 05/01/48 | アメリカ・ドル | 1.1 |
| US TREASURY N/B 3.125% 05/15/48 | アメリカ・ドル | 1.0 |
| 組入銘柄数 | 356銘柄 | |

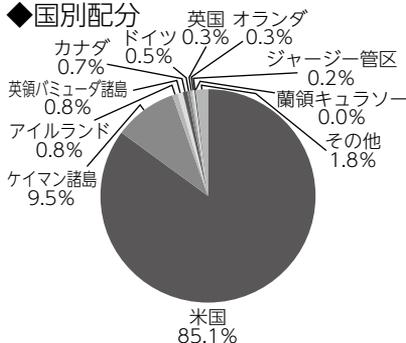
◆1口当たりの費用明細

費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

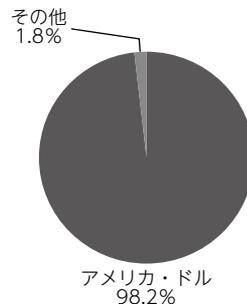
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移はDIAMケイマン・ファンド-Janus USコアプラス・ボンド・ファンド 円建て毎年分配為替ヘッジなしクラスの計算期間(決算日が休日の場合は前営業日まで)のもので、また、分配金を再投資したものととしてアセットマネジメントOneが作成したものです。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、DIAMケイマン・ファンド-Janus USコアプラス・ボンド・ファンドの決算日(決算日が休日の場合は前営業日)現在の状況を表示しております。

(注3) 比率はDIAMケイマン・ファンド-Janus USコアプラス・ボンド・ファンドの純資産総額に対する組入有価証券評価額の割合です。

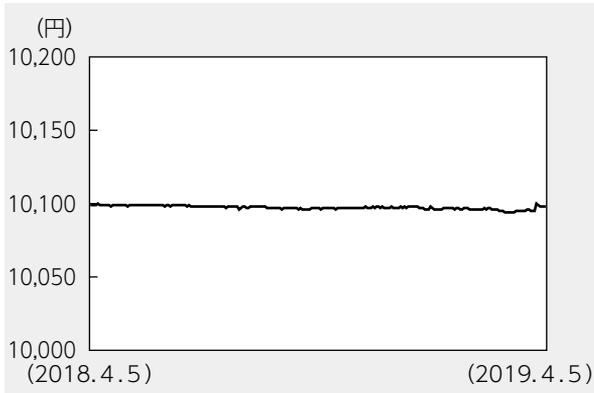
(注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注5) 国別配分については、上位11位以下をその他に含めて集計しています。

(注6) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、管理事務代行会社である米国みずほ銀行のデータを基にアセットマネジメントOneが作成したものです。組入全銘柄や費用の総額に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

【DIAMマネーマザーファンド】（計算期間 2018年4月6日～2019年4月5日）

◆基準価額の推移



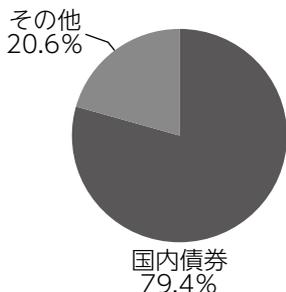
◆組入上位10銘柄

| 銘柄名 | 通貨 | 比率 |
|--------------------------|------|-------|
| 1 2 3回 利付国庫債券（5年） | 日本・円 | 74.4% |
| 3 9 1回 利付国庫債券（2年） | 日本・円 | 1.2 |
| 3 0 1回 利付国庫債券（10年） | 日本・円 | 1.2 |
| 3 9 2回 利付国庫債券（2年） | 日本・円 | 0.6 |
| 3 8 8回 利付国庫債券（2年） | 日本・円 | 0.6 |
| 2 1年度3 5回 兵庫県公募公債 | 日本・円 | 0.3 |
| 1 1 2回 政保日本高速道路保有・債務返済機構 | 日本・円 | 0.2 |
| 2 6年度4回 静岡県公募公債 | 日本・円 | 0.1 |
| 2 7年度2回 千葉県公募公債 | 日本・円 | 0.1 |
| 2 7年度 京都府京都みらい債 | 日本・円 | 0.1 |
| 組入銘柄数 | 22銘柄 | |

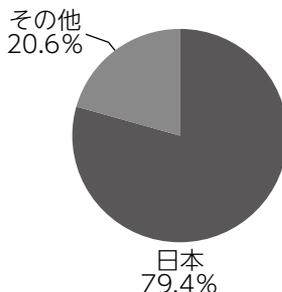
◆1万円当たりの費用明細

| 項目 | 当期 | |
|--------------------|-----------|-------------------|
| | 金額 | 比率 |
| (a) その他費用 （その他） | 0円 (0) | 0.000% (0.000) |
| 合計 | 0 | 0.000 |

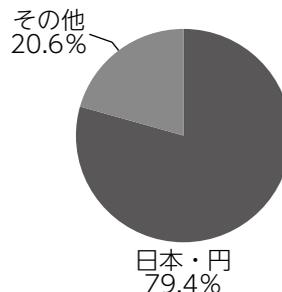
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万円当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万円当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万円当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（10,097円）で除して100を乗じたものです。なお、(a) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数です。その他は、信託事務の処理に要する諸費用等です。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(このページは白紙です)

(このページは白紙です)

